

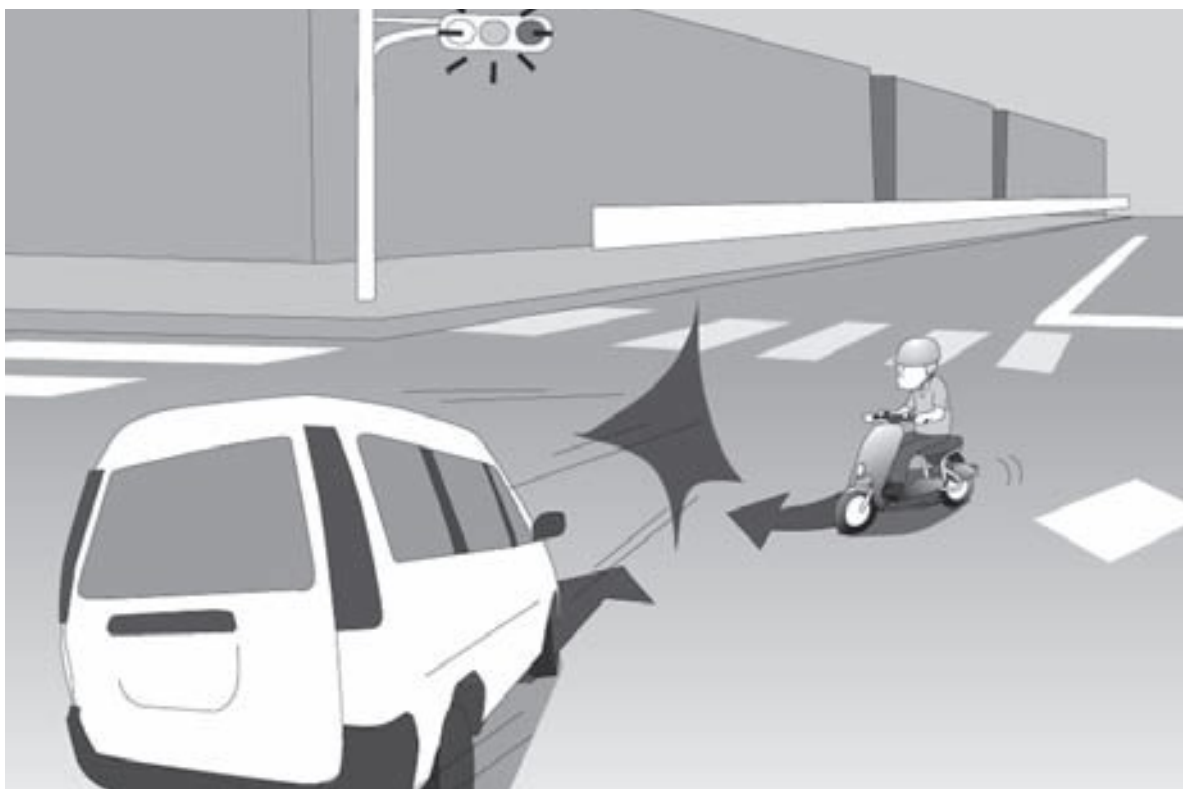
事故に
学び
安全運転に
生かす

事例研究 77

黄信号で進入し原付と衝突

事故の概要

- 発生日時 10月7日(土) 午前8時30分頃 天候 晴れ
- 発生状況 運転者が納品先に向かって走行中、黄信号で交差点に進入して対向車線から右折しようとした原付と衝突し、相手運転者に頭蓋骨骨折などの重傷を負わせたもの。
- 事故当事者 男性25歳 相手側 男性22歳
- 事故原因 運転者は、朝一番の納品先への出発が予定より遅れたため、指定時間に間に合わそうと焦っていました。そして、信号交差点の手前まで来た時、信号は黄色に変わってしまいましたが、強引に通過しようとアクセルを踏み込んだ瞬間、右折してきた原付と衝突してしまいました。運転者は右折待ちの原付には気づいていましたが、こちらの通過を待つだろうと、また、相手運転者も車が当然止まるだろうと思い込んでいたのです。



提供：中部交通共済協同組合 安全推進部

被害／損害 22歳男子後遺障害9級

総損害額 6,810万円

■被害概要

- ・被害者の職業 大学生
- ・被害状況 頭蓋骨、左大腿骨、左膝関節内など、全身に複数個所の骨折をし、入院1年・通院1年。
神経損傷に伴う麻痺のため右脚、骨折に伴う拘縮のため左脚に障害を残し、後遺障害9級。

■損害額内容

・治療費	820万円
・休業損害	470万円
・逸失利益	4,100万円
・慰謝料	1,090万円
・対物	15万円
・弁護士費用	315万円
計	6,810万円

■運転者について

運転免許停止90日の行政処分を受けました。

被害者について

被害者は翌年の春には大学を卒業し、大学院へ進む予定でした。この日も自宅から20キロ離れたバイト先に行くため、原付スクーターで市街地を走行していました。バイト先では年の近い同僚が何人もいて、いつしか友人となり、休憩時間や仕事が終わってからの語り合いもかけがえのない楽しみになっていました。

この事故により被害者は、頭、腰、右脚、左脚など全身を骨折する大怪我をし、繰り返される手術により抵抗力が弱くなったことで、感染症を併発して命も危ぶまれました。両親や3人の兄・姉妹たちも「どうか命だけは」と夜通し祈る日々を過ごしたそうです。祈りが通じたのか、徐々に様態も安定してきましたが、長期間の休学を余儀なくされ、治療の日々が続きました。

2年にわたる治療により、両脚に障害が残りましたが、その後、復学、大学院卒業を経て就職することができました。しかし、被害者は、現在も障害の残った両脚をかばいながらの生活を強いられているのです。

この事故から学ぶ事

運転者は、出発する時間が遅れたために焦っていました。いつもなら信号が黄色に変われれば交差点には進入せず、必ず手前で停止したはずですが、この時は急ぎの心理に囚われ、交差点を通過することで頭がいつぱいだったのです。

道路と車と人が複雑に交わる交差点とその付近は最も事故が起こりやすい場所でもあり、毎年、多くの人身事故が発生しています。止まる車、急に飛び出してくる人、また、不意に右折しようとする車など、交差点では色々な危険がかかれています。だからこそ、冷静に状況を判断することが求められるのです。

焦っているときは、自分に都合のいい方に予測しがちです。焦っているときほど一呼吸おくなどして、相手がどう動いても対処できるように備えましょう。

提供：中部交通共済協同組合 安全推進部